

5年生社会科

「自然災害の防止」

指導計画案

～久留米市を流れる筑後川から風水害を題材として～

## 小単元「自然災害の防止」

### 1. 本小単元の概要

(1) 我が国の国土の自然などの様子について、次のことを地図や地球儀、資料などを活用して調べ、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連を持っていることを考えるようにする。

エ 国土の保全などのための森林資源の働き及び自然災害の防止

我が国の国土ではさまざまな自然災害が起こりやすく、自然災害の発生は、私たちの生活や産業に大きな影響を与える。その被害を防止するために、国や県などがさまざまな対策や事業を進めていることなどを、郷土久留米市を流れる筑後川や筑後川の風水害を題材に調べ、私たちの生活や産業との関わりについて考える。また、自然災害が起こりやすい我が国では国民一人一人が防災意識を高める必要があることに気付くようにする。

#### 【捉えさせる内容とねらい】

①我が国の国土ではさまざまな自然災害が起こりやすいこと

■日本の自然災害の概要（全体像）をつかませる。（地震、津波、風水害、土砂災害、雪害など）

②自然災害の被害防止のために、普段から国や県などがさまざまな対策や事業を進めていること

■風水害に着目し、公的機関が国土の保全に努めていることを捉えさせる。（治水対策、避難場所の設置、ハザードマップなど）

③自然災害が発生したとき、国や県などが緊急の対応を行っていること

■風水害に着目し、起こり得る人々の生活や産業の変化を考え、公的機関などの災害時の対応を捉えさせる。（洪水予報や避難指示等の発令、避難誘導、救助活動、復旧活動など）

④国民一人ひとりが防災意識を高めること → 風水害からさまざまな災害への展開

■防災の観点からよりよい国民生活の実現を目指す態度を育む。

（自然災害の防止（平常時・災害発生時）の国や県などの対策や事業の振り返り）

（風水害に加えて、私たちがさまざまな自然災害に備えてできること）

### 2. 本小単元の構成

#### 【第1時】

日本の自然災害の概要（全体像）をつかむ。

日本ではさまざまな災害が発生している。風水害では地形や気候が関係しているようだ

#### 【第2時】

公的機関が国土の保全に努めていることを捉えさせる

風水害を防止するためにさまざまな対策がある。堤防を作るにもさまざまな人たちが連携・協力している。

#### 【第3時】

人々の生活や産業の変化を考え、公的機関などの災害時の対応を捉えさせる。

風水害による生活や産業への被害を低減するために、さまざまな人たちが連携・協力している。

#### 【第4時】

防災の観点からよりよい国民生活の実現を目指す態度を育む。

平常時や災害時の対策を振り返り、自分たち一人ひとりの備えやできることを考え実行しよう。


### 3. 評価の目標

- 関心・意欲・態度……………自然災害について関心をもち、意欲的に調べることを通して、自然災害防止の重要性や国民一人一人が防災意識を高め、協力することの大切さを考えようとしている。
- 思考・判断・表現……………自然災害について、我が国の国土ではさまざまな自然災害が起りやすいこと、その被害を防止するために国や県などの対策や事業が行われていることにより、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考え、調べたことや考えたことを適切に表現している。
- 観察・技能……………我が国で起こるさまざまな自然災害や、その被害を防止するための国や県などの対策や事業について、地図や統計などの各種の基礎的資料を効果的に活用して具体的に調べ、調べた過程や結果をノートや作品にまとめている。
- 知識・理解……………我が国でおこるさまざまな自然災害を防止するために、国や県（都、道、府）、市町村などがさまざまな対策や事業を進めていることを理解している。

### 4. 指導計画(4時間扱い)

	学習活動・内容	指導のポイント
1	〔自然災害のおこりやすい国土〕 我が国で起こる自然災害について調べ、我が国は国土の地形や気候とのかかわりで自然災害がおこりやすいことをつかむ。	我が国で起こった自然災害の発生状況や、発生しやすい理由を、写真や図を活用し学習する。
2	〔自然災害からくらしを守るために〕 郷土の筑後川を題材に風水害を防止するために、普段から国や市などがさまざまな対策や事業を進めていることをつかむ。	自然災害の一つ、風水害を防ぐために全国で行われている一般的な対策や事業を知る。また、筑後川の堤防を調べ、学習する。 治水対策は万全でない部分があることを気付かせるようにする。
3	〔もしも自然災害が起こったら〕 郷土の筑後川で風水害が発生した場合を題材に、私たちの生活や産業への影響を考えるとともに、風水害が発生した時の関係機関の働きや連携について捉えることができる。	風水害発生時に働く組織や、日ごろから風水害の防止のために働いている組織を知り、多くの人の働きによって安全なくらしが成りたっていることを学習する。
4	〔自然災害に備えてできることを考えよう〕 これまでの学習を振り返り、自分たちの身の回りにも風水害などの自然災害が起こることを認識し、国民一人一人が日頃から防災意識を高めることが大切であることに気付く。	自分たちの住む街にある避難所や普段からの備えといった最低限必要なことを調べながら、風水害などの自然災害が発生した時に備えて自分自身にできることを考える。


# 「自然災害のおこりやすい国土」(1/4)

1. 本時の位置づけ	5年生社会「自然災害の防止」(全4時間)の導入の時間として位置づける。
2. 指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本には、豊かな自然がある一方で、ひとたび自然災害が発生すると、大きな被害となる。豊かな自然と自然災害は隣り合わせとなっている。</li> <li>・自然災害には、地震、津波、風水害(台風被害や洪水)、土砂災害、雪害、火山の噴火、日でりなどがある。</li> <li>・それぞれの自然災害には、自然災害が発生する要因として、国土の地形や気候が関係している。</li> <li>・その中で久留米市に該当するものを考えてみる。</li> </ul>
3. 学習方法の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT(大型TV)の活用</li> <li>・グループ単位での学習</li> </ul>
4. 本時のねらい	<p>日本で発生しているさまざまな自然災害について知る。</p> <p>自然災害の発生と国土の地形や気候との関係を考える。</p> <p>地形や気候から、久留米市に起こりやすい自然災害を考える。</p>
5. 教科書(日本文教出版「小学社会」)における振替ページ	

6. 学習の過程

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項	資料（解説書参照）
<p>導入 (10分)</p>	<p>①我が国の「豊かな自然」と「自然災害」の様子を比べることを通して、本時のめあてをつかむ。</p> <p>「豊かな自然」 雲仙普賢岳 有珠山</p> <p>「自然災害」 噴火する普賢岳 火山灰の街</p> <p>日本は自然豊かなところ。でも自然災害があっている。火山以外にどんな自然災害が起きているのかな？</p> <p>めあて: 日本では、どんな自然災害が起きているのか調べよう。</p>	<p>○ICT（大型TV）を活用して、自然災害の前後の変化がわかるようにする。</p> <p>・写真を活用し、災害の恐ろしさを気づかせる。</p>	<p>○解説書 P.1 「さまざまな自然災害」</p>
<p>展開 (30分)</p>	<p>②我が国で起こる自然災害の概況を調べる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・火山以外の自然災害について予想する。</li> <li>・土砂災害、風水害なども自然災害の中に含まれることを理解する。</li> </ul> <p>③自然災害の発生と国土の地形や気候との関わりについて考える。</p> <p>【地形】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・火山 火山が多い</li> <li>・地震 震源地が多い</li> <li>・津波 震源地が多く海に面している</li> <li>・風水害 土地が低い、川がある</li> </ul> <p>【気候】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・風水害 大雨（梅雨）や台風雨が多い方の地域</li> </ul> <p>④久留米市での自然災害を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・久留米市は平野部で、筑後川が流れる。</li> <li>・九州は雨が多い地方である。</li> </ul>	<p>災害の種類ごとにグループ分けしていく。</p> <p>・久留米市に該当する地形・気候条件を考え、風水害が起きやすいことに気づかせる。</p> <p>・久留米市では風水害が起きやすい地域であることに気付かせる。</p>	<p>○解説書 P.2 「さまざまな自然災害」</p> <p>・日文教科書 P89 「災害のおそれのあるところ」</p> <p>○解説書 P.4～7 「我が国で風水害の発生が多い理由」</p>
<p>まとめ (5分)</p>	<p>⑤ふりかえりをノートにまとめさせる。</p> <p>⑥まとめを伝える。</p> <p>まとめ: 日本では、地震や風水害などさまざまな自然災害が起きている。これらの災害は、日本の地形や気候が関係している。</p>		

## 「自然災害からくらしを守るために」(2/4)


1. 本時の位置づけ	5年生社会「自然災害の防止」(全4時間)の展開の時間として位置づける。
2. 指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1時間目で、地形と気候が自然災害に深く関わっていることが分かり、久留米市は風水害が起こりやすい場所であることが分かった。</li> <li>・風水害を防ぐために堤防、ダム、遊水地、捷水路(しょうすいろ)、排水機場など数多くの対策が実施されている。もちろん、筑後川でも上記のような治水対策が行われている。</li> <li>・久留米市における治水対策では、筑後川から川の水が氾濫しないように引堤が実施されており、工事の実施にあたっては、地域の協力が必要だった。</li> <li>・しかし、久留米市のハザードマップが示しているように、大きな洪水が発生した際には久留米市も浸水してしまう危険性があり、安心することはできない。</li> <li>・万が一に備えて、日々の管理を仕事とする人たちを紹介する。</li> </ul>
3. 学習方法の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT(大型TV)の活用</li> <li>・グループ単位での学習</li> </ul>
4. 本時のねらい	<p>自然災害の一つ、風水害の被害を防ぐための対策を知る。          対策の実施のためには、多くの協力が必要であることを考える。          対策後も万が一に備えて、管理を行っていることを知る。</p>
5. 教科書(日本文教出版「小学社会」)における振替ページ	

※ 筑後川洪水ハザードマップは、久留米市のHPよりダウンロードすることができます。

## 6. 学習の過程

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項	資料（解説書）
導入 (10分)	①前回の授業のふりかえりを行う。 ②筑後川で過去におこった洪水(昭和28年)についての写真を見せる。 ③風水害の防止のために国や県がどのような対策を行っているか子どもたちに問いかける。 ●予想される回答 堤防、ダム →回答以外の治水対策も図を使って学習する。(堤防、引堤、分水路、捷水路、ダム、排水機場) ④めあてをつかむ。	○ICT(大型TV)を活用して、治水対策がわかるようにする。  ・堤防、ダム以外にも治水対策があることに気づかせる。	○解説書P.8 「筑後川で起きた過去の風水害」  ○解説書P.9～10 「国や市で行われている治水対策」
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #e0f2f1;">             めあて：自然災害の一つである風水害の防止のためにどのような対策がおこなわれているのだろう。           </div>			
展開 (30分)	⑤筑後川の堤防(引堤)について学習する。 ・堤防(引堤)の役割 ・堤防(引堤)をつくる大変さ  ⑥ハザードマップを見せ、堤防が決壊するとどうなるかを学習する。  ⑦堤防を維持するために、筑後川河川事務所はどのようなことをしているのか、VTRで学習する。	・堤防の設置、維持についての学習で、風水害防止に公的機関が関わっていることを捉えさせる。	○ハザードマップ(解説書P.11「筑後川洪水ハザードマップ」) ○VTR「風水害を防ぐために働くひとへインタビュー」(解説書p.12「風水害に備えて普段から働く人々」)
まとめ (5分)	⑧ふりかえりをノートにまとめさせる。 ⑨まとめを伝える。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #fff9c4;">             まとめ：国や県が災害を防止するためにさまざまな対策を行なっている。           </div>			

## 「もしも自然災害が起こったら」(3/4)

1. 本時の位置づけ	5年生社会「自然災害の防止」(全4時間)の展開の時間として位置づける。
2. 指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2時間目では、自然災害の一つ、風水害を防ぐために実施された工事には多くの協力が必要であり、万が一に備えて管理していることがわかった。</li> <li>・しかし風水害を完全に防止することはできないため、風水害が発生した際に被害を小さくするために働く人々がいる。</li> <li>・もしも風水害が発生すると、私たちの生活や産業などに多大な影響を及ぼす。</li> <li>・風水害の被害を小さくするために働く人や思いを知ること、自らもできることを考えるきっかけを与える。</li> </ul>
3. 学習方法の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT(大型TV)の活用</li> <li>・グループ単位での学習</li> </ul>
4. 本時のねらい	<p>自然災害の一つ、風水害が発生した場合の関係する人々の働きを知る。</p> <p>風水害が発生した場合に私たちの暮らしへの影響を考える。</p> <p>風水害の被害を最小限にするために働く人々の思いを感じ取る。</p>
5. 教科書(日本文教出版「小学社会」)における振替ページ	


※ 筑後川洪水ハザードマップは、久留米市のHPよりダウンロードすることができます。



6. 学習の過程

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項	資料（解説書）
導入 (10分)	①前回の授業のふりかえりを行う。 ②筑後川で過去におこった洪水（昭和28年）についての写真を見せる。 ③このとき、人々の生活はどうなったかを問いかける。 めあて：風水害がおこったら、生活や産業はどうなるのか調べよう。		○解説書 P. 8 「筑後川で起きた過去の風水害」
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちを班にして、イラスト資料を配布する。</li> <li>④風水害が起こると、私たちの生活や産業にどんな影響があるかを問いかける。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・町や家が浸水する。</li> <li>・道路や橋が使えない。</li> <li>・電気やガスが使えない。</li> <li>・農作物などが被害を受ける。</li> <li>・工場が止まる。</li> </ul> </li> <li>⑤風水害による被害を小さくするために、どんない人々が働いているか調べる。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・イラストの中に職業ではなく働く人々がいることを気づかせる</li> </ul> </li> <li>⑥筑後川河川事務所の働きについて、VTRで学習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・風水害が私たちの生活や産業に大きな影響を与えることを気づかせる。</li> <li>・筑後川河川事務所の働く人が、どのような思いで働いているのかを伝える。</li> </ul>	○解説書 P. 13 「風水害が発生した際に働く人々」 ○解説書 P. 14 『風水害時のそれぞれのはたらき』 ○VTR「風水害で働くひとへインタビュー」（解説書 p. 15『風水害時のそれぞれのはたらき』）
まとめ (5分)	⑦ふりかえりをノートにまとめさせる。 ⑧まとめを伝える。 まとめ：風水害などの自然災害が起こると私たちの生活や産業に大きな影響がでる。被害を小さくするため、さまざまな人が協力して安全を守っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を振り返り、多くの人たちの働きで自分たちの安全な生活が保たれていることに気づかせる。</li> </ul>	

## 「自然災害に備えてできることを考えよう」(4/4)

1. 本時の位置づけ	5年生社会「自然災害の防止」(全4時間)のまとめの時間として位置づける。
2. 指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自然災害の防止」のまとめとして、これまでの学習の振り返りや、日ごろから防災に関して関心を持つことの大切さについて考える。</li> <li>・3時間目では、自然災害の一つ、風水害が起こると私たちの生活や産業に大きな影響が出るとともに、さまざまな人々が被害を小さくするために滑動することが分かった。</li> <li>・久留米市では、過去、風水害が発生し、今後も起こらないとも限らない。</li> <li>・もしもの時に備えて、自分たちでできることには、風水害に関係して働く人々に連絡することや、避難所の場所や連絡先を知ること、安全な避難の方法を知ること、防災に関する情報を知ること、必要な持ち物を用意しておくこと等がある。</li> <li>・自分たちの住む場所の避難所等を確認する活動や、自分たちにできることを話し合うことで、自助の意識高める。</li> <li>・風水害以外の自然災害についても同様のことが言え、自分たちでできることを考えることが重要である。</li> </ul>
3. 学習方法の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT(大型TV)の活用</li> <li>・グループ単位での学習</li> </ul>
4. 本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・風水害時に自分たちができることを考え、万が一に備えて避難所や必要な準備を調べることができる</li> <li>・風水害に限らず、自然災害の備えることが大切であることに気付くことができる。</li> </ul>
5. 教科書(日本文教出版「小学社会」)における振替ページ	

6. 学習の過程

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項	資料（解説書）
<p>導入 (10分)</p>	<p>①これまでの授業を振り返る。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本は気候条件と地形条件により自然災害が起こっている。</li> <li>・自然災害を防止するために、国や県などがさまざまな対策を行なっている。</li> <li>・自然災害が起こると、生活や産業に大きな影響を与える。</li> <li>・自然災害の被害を小さくするためにさまざまな人々が活動し、私たちの安全を守っている。</li> </ul> <p>②めあてを伝える。</p> </p>	<p>簡潔に1～3時間を振り返る。            (1～3時間のそれぞれの時間のまとめを発表させる。)</p>	<p>○解説書 P.1            「さまざまな自然災害」</p>
<p>めあて：自然災害に備えて自分たちができることは何だろう。</p>			
<p>展開 (30分)</p>	<p>③チェックシートを配布し、普段から災害に備えてできていることを確認する。</p> <p>④班にさせ、ハザードマップを使って、避難場所を調べさせる。</p> <p>⑤解説書 P20 の「風水害に対する心がけ・緊急時の心がけ」を配り、災害に備えて、普段から家庭でできることの大切さを伝える。</p> <p>⑥風水害が発生した際に自分たちができることを班で話し合い発表する。  <b>●予想される回答</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所に避難する</li> <li>・テレビやラジオで天気や水位を確認</li> <li>・一人で行動しない</li> </ul> </p> <p>⑦風水害以外の災害への備えとの共通点を考え、自然災害には備えが必要であることに気づかせる。</p>	<p>・備えのほとんどが地震などの他の災害にも重要なことに気付かせる。</p>	<p>○ワークシート「風水害への備えチェックリスト」(解説書 P.21)            ○ハザードマップ (解説書 P.16「風水害に対する心がけ」)            ○プリント「風水害に対する心がけ・緊急時の心がけ」(解説書 P.20)</p>
<p>まとめ (5分)</p>	<p>⑧ふりかえりをノートにまとめさせる。</p> <p>⑨まとめを伝える。</p>		
<p>まとめ：風水害に限らず自然災害に備えて、普段から自分にできる備えを行うことが大切である。</p>			

こく と こう かつ しやう  
国 土 交 通 省  
ちく こ がわ か せん し む しよ  
筑 後 川 河 川 事 務 所  
か せん かん きやう か  
河 川 環 境 課

〒830-8567 福岡県久留米市高野 1 丁目 2 番 1 号  
TEL.0942-33-9131  
<http://www.qsr.mlit.go.jp/chikugo/>